TOP QUALITY | INTRODUCTION EDUCATION | COLLABORATION WITH ART | CHARITY HEART
- SINCE 2012 -

INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

国際音楽祭
NIPPON
2022

芸術監督：諏訪内晶子

諏訪内晶子 室内楽プロジェクト
Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends

世界中が新型コロナ感染症の影響による「禍」に突入し、はや2年の月日が経とうとしています。新変異株の出現もあり、様々に制限された日々が長く続く中で、これまで気に留めなかった「日常の出会い」が、私たちにとってどれほど大切なものであるかを、切実に感じる時間でもありました。

国際音楽祭NIPPONは、音楽を通した「出会い」の場として、「感動を紡ぐ」場であってほしいと願ってまいりました。演奏をお聴きいただくお客様、未来を担う若い方々と、かけがえのない演奏空間を共に過ごし、特別な「経験＝体感」を共有できることを心待ちにしております。

会場に足をお運び下さった皆様、この度も変わらぬご支援をいただいております企業の皆様、関係の皆様に厚く御礼申し上げます。

国際音楽祭NIPPON 2022
芸術監督
諏訪内 晶子

It has been nearly two years since the world was plunged into crisis by the Covid-19 pandemic. With the emergence of new variants and prolonged restrictions in our daily lives, this has also been a time when we have become keenly aware of the great importance of the "everyday encounters" we previously took for granted.

It has always been my hope that the International Music Festival NIPPON, as a setting for "encounters" through music, will be a space for the creation of emotion and inspiration. I am looking forward to spending time together in the irreplaceable performance space and sharing special, genuine experiences with everyone who comes to hear the performances, as well as the young people who are the future of music.

I would like to express my deepest gratitude to those who have come to hear the performances, to the corporations who have provided continued support, and to everyone who has helped make the festival possible.

Akiko Suwanai
Artistic Director
International Music Festival NIPPON 2022

国際音楽祭NIPPON 2022

芸術監督：諏訪内晶子

諏訪内晶子 室内楽プロジェクト Akiko Suwanai Chamber Music Project

Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends

Akiko Plays CLASSIC with Friends

3月9日（水） 19:00 東京 紀尾井ホール
March 9 Wed. 19:00 Tokyo Kioi Hall

モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲 ト長調 K.423（諏訪内／鈴木）
W. A. Mozart: Duo for Violin and Viola in G major, K.423

第1楽章：アレグロ	1st Mov.: Allegro
第2楽章：アダージョ	2nd Mov.: Adagio
第3楽章：ロンドー、アレグロ	3rd Mov.: Rondeau. Allegro

ファニー・メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲 変ホ長調（ゴトーニ／諏訪内／鈴木／辻本）
Fanny Mendelssohn-Hensel: String Quartet in E-flat major

第1楽章：アダージョ・マ・ノン・トロッポ	1st Mov.: Adagio ma non troppo
第2楽章：アレグレット	2nd Mov.: Allegretto
第3楽章：ロマンツェ	3rd Mov.: Romanze
第4楽章：アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ	4th Mov.: Allegro molto vivace

クララ・シューマン：3つのロマンス Op.22（諏訪内／阪田）
Clara Schumann: 3 Romances, Op.22

第1曲：アンダンテ・モルト	1. Andante molto
第2曲：アレグレット	2. Allegretto
第3曲：情熱的に速く	3. Leidenschaftlich Schnell

♩ ♩ ♩

フランク：ピアノ五重奏曲 ヘ短調（諏訪内／ゴトーニ／鈴木／辻本／阪田）
C. Franck: Piano Quintet in F minor

第1楽章：モルト・モデラート・クアジ・レント	1st Mov.: Molto moderato quasi lento
第2楽章：レント・コン・モルト・センティメント	2nd Mov.: Lento, con molto sentimento
第3楽章：アレグロ・ノン・トロッポ・マ・コン・フォーコ	3rd Mov.: Allegro non troppo ma con fuoco

ヴァイオリン：諏訪内晶子、マーク・ゴトーニ
Violin: Akiko Suwanai, Mark Gothoni

ヴィオラ：鈴木康浩
Viola: Yasuhiro Suzuki

チェロ：辻本玲
Cello: Rei Tsujimoto

ピアノ：阪田知樹
Piano: Tomoki Sakata

＊当初予定していた出演者に変更がございます。（両公演とも）

Akiko plays MODERN with Friends

3月11日（金） 19:00 東京 紀尾井ホール
March 11 Fri. 19:00 Tokyo Kioi Hall

望月 京：フィロジェニー（国際音楽祭NIPPON委嘱／世界初演）＜2022＞（諏訪内／鈴木）
Misato Mochizuki: Phylogénie
Commissioned Work by International Music Festival NIPPON (Worldpremiere) <2022>

テリー・ライリー：Gソング＜1980＞（ゴトーニ／諏訪内／鈴木／辻本）
Terry Riley: G Song <1980>

ジェルジュ・クルターク：ミハーイ・アンドラーシュへのオマージュ（弦楽四重奏のための12のミクロリュード）Op.13＜1978＞
（ゴトーニ／諏訪内／鈴木／辻本）
Gyorgy Kurtag: Hommage a Andras Mihaly - 12 Microludes for String Quartet, Op.13 <1978>

♩ ♩ ♩

マーク=アンソニー・ターネジ：ピアノ五重奏のための「スライド・ストライド」＜2002＞
Mark-Anthony Turnage: Slide Stride for Piano and String Quartet <2002>（ゴトーニ／諏訪内／鈴木／辻本／阪田）

グラジナ・バツェヴィチ：ピアノ五重奏曲第2番＜1965＞（諏訪内／ゴトーニ／鈴木／辻本／阪田）
Grażyna Bacewicz: Piano Quintet No.2 <1965>

第1楽章：モデラート	1st Mov.: Moderato
第2楽章：ラルゲット	2nd Mov.: Larghetto
第3楽章：アレグロ・ジョコーソ	3rd Mov.: Allegro giocoso

ヴァイオリン：諏訪内晶子、マーク・ゴトーニ
Violin: Akiko Suwanai, Mark Gothoni

ヴィオラ：鈴木康浩
Viola: Yasuhiro Suzuki

チェロ：辻本玲
Cello: Rei Tsujimoto

ピアノ：阪田知樹
Piano: Tomoki Sakata

主催：ジャパン・アーツ／日本経済新聞社
後援：フィンランド大使館　協力：ユニバーサル ミュージック
特別協賛：豊田自動織機　TOYOTA　豊田通商　AISIN

Program
Notes

沼野 雄司（音楽学） Yuji Numano

＜Akiko Plays CLASSIC with Friends＞

19世紀の女性作曲家といえば、多くの人がまずはファニー・メンデルスゾーンとクララ・シューマンの名を挙げるのではないだろうか。しかし1983年に刊行された、我が国最大の音楽事典である平凡社「音楽大事典」を見ると、ファニーもクララも項目は立っておらず、それぞれ弟、夫の項目の中でひっそりとその存在が記されているだけだ。こんなところからも、この40年で音楽史の見取り図がいかに変わったかがよく分かる。今やこの2人は、ロマン派という運動の一側面を象徴する重要な音楽家と見なされているから、未来の音楽事典の項目から外れることはまずないだろう。

モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲 ト長調 K.423

W.A.モーツァルト（1756－91）によるこの二重奏曲は、病のために作曲が滞っていたミヒャエル・ハイドンを助けるための代作という逸話で知られている。ただし、現在の研究は相当程度、この友情エピソードを疑問視しているらしい。確かに、代打にしては個性が出すぎており、ミヒャエルの様式とは明らかに異なっているのだ。しかし、こんなに楽しい二重奏もそうはないから、もしも代作説が本当だとしたら、我々はミヒャエルに感謝するべきだろう。作曲は1783年。

第1楽章（アレグロ）は、2つの楽器が絶妙に絡み合う中で、作曲者ならではの技術がいかんなく発揮された痛快な音楽。**第2楽章**（アダージョ）は、ヴァイオリンがしっとり歌う緩徐楽章だが、それを受け止めるヴィオラ・パートの豊かさに注目したい。**第3楽章**（アレグロ）は、軽快なロンド。両楽器が同じリズムで高揚してゆく部分に作曲者の若い鼓動がうかがえよう。

ファニー・メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲 変ホ長調

ファニー・メンデルスゾーン＝ヘンゼル（1805－47）は、フェリックスの4歳上の姉。強調しなければならないのは、ファニーの個性が弟とはかなり異なることだ。あくまでも古典的な佇まいを崩さない弟とは対照的に、ファニーの音楽は時に激しく短調へと傾き、直截なパトスを発散する。バッハ以降のドイツ音楽を深く消化し、それらを濃厚なポエジーへと昇華させる点においては、むしろシューマン的な作曲家ともいえるかもしれない。

第1楽章（アダージョ・マ・ノン・トロッポ）は、なんと緩徐楽章。大胆な着想であり、まるでベートーヴェンの晩年の四重奏を聴くような味わいがある。**第2楽章**（アレグレット）は、憂いを含んだスケルツォ。中間部では突如としてざっくりとしたフーガに転じて、弟に負けない対位法技術を披露する。**第3楽章**（ロマンツェ）は、きわめて穏やかながら初期ロマン派の最良の一頁ともいえる流麗な音楽。そして**第4楽章**（アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ）において、ようやくソナタ形式が登場。華やかな楽想だが、なにより展開部では一気に短調に転じて、ドラマティックな情念の奔流が走るのが、ファニー流だ。

クララ・シューマン：3つのロマンス Op.22

19世紀のドイツにおいて、ピアニストとしてもっとも華やかな活躍を果たしたのが、クララ・シューマン（1819－96）である。当時の感覚からすれば、ロベルトの方が「クララの夫」ということになろう。彼女は作曲の才にもめぐまれていたが、当時の社会や夫との関係の中で、そして8人の子どもを育てる中で、創作に十分な時間を割くことはできなかった。とりわけロベルトが没してからは、ほとんど作曲の筆は執っていない。

ピアノとヴァイオリンのための「3つのロマンス」は、1853年、シューマン夫婦が過ごした、最後の平穏な時期に書かれたものである。全体はややムード的に傾くこともあるが、しなやかな個性が垣間見える、愛らしい音楽だ。**第1曲**（アンダンテ・モルト）は、やわらかい情感の中で旋律が紡がれてゆく中で、時折ジプシー風のニュアンスが浮かんでは消える。**第2曲**（アレグレット）は、陰と陽の統合。どちらの要素も決して支配的にならない、品格のある中庸。そして、もっとも長い**第3曲**（情熱的に速く）は、ほとんどピアノ曲のような複雑な音型の上で、ヴァイオリンが息の長い旋律を奏でてゆく。

フランク：ピアノ五重奏曲 ヘ短調

19世紀のフランス音楽は、1871年の普仏戦争の敗北を機に新しいフェイズに入る。もはやドイツ・ロマン派の後塵を拝することなく、新しいフランスの器楽を打ち立てねばならない・・・。こうしてサン＝サーンスを中心にして設立されたのが「国民音楽協会」であった。セザール・フランク（1922－90）は創設メンバーのひとりだが、リエージュ生まれの彼は、このとき若いころ取得したフランス国籍を失効しており、のちにあわてて、再交付の手続きを進めることになる。

こんなエピソードに象徴的なのだが、そもそも両親ともにドイツ系であった彼の場合、ワーグナーへの傾倒も含めて、この協会とは少々方向性を異にしている。1879年に書かれた「ピアノ五重奏曲」はその雄弁な証拠のひとつ。ここでは後期ロマン派の抒情とフランスの和声が高度に一体化し、奇跡のように豊潤な香りを放っている。

第1楽章（モルト・モデラート・クアジ・レント）は、序奏の冒頭でヴァイオリンが下行して始まる。この複付点リズムは全曲を通して何度もあらわれるので注目しておきたい。主部はさまざまな動機が緊密に縒り合されて出来ているが、ヴィオラではじまる第2主題の可憐さが印象的。**第2楽章**（レント・コン・モルト・センティメント）は、ゆったりとした8分の12拍子の中で、ヴァイオリンによる密やかな歌が、徐々に高揚を遂げる過程。**第3楽章**（アレグロ・ノン・トロッポ・マ・コン・フォーコ）では、調性の定まらない不穏な響きが、やがてそれまでの楽章の主題を呼び込みながら、きらびやかなコーダへと向かう。

＜Akiko Plays MODERN with Friends＞

21世紀の現在、もはや「女性作曲家」という概念は消滅しつつある。ほとんどの音楽大学の作曲専攻は今や女性の方が多いくらいだし、若手作曲家をあれこれ思い出しても男女の数や質に差など感

じられない。ヒルデガルト・フォン・ビンゲンからおよそ千年近くがたって、ようやく我々はここに到達したわけである。人類の未来については悲観的な予想ばかりだけれども、しかしこれは、掛け値なしに良いことだ。まずは望月京の新作に耳を傾けつつ、そんな時代を静かに喜びたい。

望月 京：フィロジェニー

＊作曲者解説を参照

テリー・ライリー：Gソング

カリフォルニア生まれのテリー・ライリー（1935－）は、インド音楽などの影響から「ミニマル・ミュージック」と呼ばれる、限定された素材を反復する手法を開拓し、アメリカ音楽に新しい局面を開いた人物。現在にいたるまで、作曲家・即興演奏家としてジャンルを越えた活躍を続けているが、2020年、85歳になってから日本に居を構えるあたり、旺盛な好奇心と天性の放浪癖が感じられて面白い。

「Gソング」は、もともとはサックスとキーボードのための小品を1980年、クロノスカルテットのために弦楽四重奏曲に仕立て上げたもの。ト短調、16小節のコード進行が何度も繰り返される構成は、バロック音楽的でもあり、ジャズ的でもあるが、一方でその上に乗せられて、次々に変容してゆく旋律は、アメリカ先住民の音楽に深い影響を受けているという。完全な調性音楽でありながら、保守的でも俗でもない不思議な響き。

ジェルジュ・クルターク：ミハーイ・アンドラーシュへのオマージュ（弦楽四重奏のための12のミクロリュード）Op.13

ルーマニア生まれのハンガリー人ジェルジュ・クルターク（1926－）は、今や最長老に属する作曲家。フランツ・リスト音楽院で学んだあと、50年代にパリで前衛音楽に出会い、ウェーベルンに範をとった独自の様式を開拓することになった。社会主義政権下で新しい音楽の創作が制限されていたこと、さらには極端な寡作のせいもあって、彼の作品は長く西側では知られていなかったが、冷戦終結後は一気に世界的な名声を得ることになった。

1978年の「ミハーイ・アンドラーシュへのオマージュ」は、ハンガリーの先輩作曲家へのオマージュであると同時に、クルタークの音楽の特徴をきわめてよくあらわした作品。全体は12の小品からなるが、第1曲は9小節、第2曲は7小節、第3曲は10小節・・・といった具合で、いずれも極端に短い。さらに各曲には和音の推移、反復音型の発展、散乱するピツィカート、深い沈黙など、それぞれ全く異なった性格が与えられているから、ちょっとばかりビターな菓子の詰め合わせといった様相を呈している。

マーク=アンソニー・ターネジ：ピアノ五重奏のための「スライド・ストライド」

マーク=アンソニー・ターネジ（1960－）は、若いころからジャズ傾倒し、レッド・ツェッペリンからビヨンセに至るポピュラー音楽を自作に取り込んだかと思えば、プレイボーイ誌で活躍したモデルの生涯をオペラに仕立て上げるといった、ジャンル越境的な姿勢で知られる作曲家。ただし彼の師のひとりが、ジャズとクラシックの融合を目指した「第三の潮流」の主唱者ガンサー・シュラーであることを忘れてはならない。型破りにも見えるターネジの活動は、師の運動を現代的な形で受け継ぐものなのだ。

2002年の「スライド・ストライド」は、ジャズ・ピアニストにして作曲家でもある、リチャード・ロドニー・ベネットに捧げられた作品。ラグタイムから生まれたジャズのストライド奏法のリズムを土台にしながらも、その上で全音階のクラスターがさまざまな形で用いられ、調と無調の狭間を漂う。およそ13分にわたって、ターネジならではのジェットコースター的な音響空間を堪能することができるはずだ。

グラジナ・バツェヴィチ：ピアノ五重奏曲第2番

グラジナ・バツェヴィチ（1909－69）はポーランドの女性作曲家。ワルシャワ音楽院でヴァイオリンを学んだのち、パリでナディア・ブーランジェに作曲を師事。戦後の56年に始まった「ワルシャワの秋」音楽祭では、セロツキやルトスワフスキらとともに積極的に牽引役を務め、次々に西側の新しい技法を取り込んでゆくことになった。没後50年以上がたっているが、クリスチャン・ツィメルマンをはじめとして、何人かの演奏家が、今も継続的に彼女の音楽に取り組んでいる。

1965年に書かれた「ピアノ五重奏曲第2番」は、生前には初演されることがなかった作品。**第1楽章**（モデラート）は、冒頭の3小節で嬰ヘ音以外の11音を使い切るという無調的な開始部から、それぞれ性格の異なる細かい断片が繋ぎ合わされて、パッチワークのような風情を醸し出す。**第2楽章**（ラルゲット）は、やはり弦楽器からピアノにかけて堆積する音群が12音をまんべんなく使われる中で、ねっとりした時間が流れてゆく。**第3楽章**（アレグロ・ジョコーソ）は、ピアノと弦楽器群のパートがはっきりと分けられ、交互に対話あるいは衝突を続ける。ピアノの下行グリッサンドが何度もあらわれるあたりの迫力は圧巻だ。

望月 京：フィロジェニー

国際音楽祭NIPPON 2022」における諏訪内晶子さんの室内楽プロジェクト「Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends」の2つの演奏会（「CLASSIC」：3月9日、「MODERN」：3月11日）のプログラムを並べると、「MODERN」コンサートの冒頭に演奏される私の曲は、ちょうど全9曲の中央に位置します。

プログラム上は分断されているものの、音楽史上は連続性のある「古典」と「現代」とを、西洋音楽の伝統や慣習、その変遷への目配せによって連係するような音楽を意図して作曲しました。

進化に伴う生物の種や系統の分化や派生の変遷が、個体発生の過程において縮小形で発現するという系統発生論（フィロジェニー）になぞらえ、曲は、西洋音楽史の各時代を象徴するような、さまざまな作曲技法や形式、様式、概念、テクスチュアのいくつかを内包する音楽的慣用句が、姿を変え、繰り返し出現することによって構成されています。

望月 京

望月 京（もちづき・みさと）

さまざまな領域への関心からもたらされる着想や、繊細さとダイナミズム、多彩な音色とバランス感覚に優れたユニークな作風が各地で注目を集め、オペラ《パン屋大襲撃》はじめ多くの委嘱作品が国内外で演奏される。芥川作曲賞、出光音楽賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、尾高賞、ハイデルベルク女性芸術家賞ほか受賞。

© TAKAKI KUMADA

Akiko Suwanai

諏訪内 晶子（国際音楽祭NIPPON2022 芸術監督／ヴァイオリン）

1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでに小澤征爾、マゼール、デュトワ、サヴァリッシュ、ゲルギエフらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ロンドン響、ベルリン・フィル、N響など国内外の主要オーケストラと共演。BBCプロムス、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン、ルツェルンなどの国際音楽祭にも多数出演。

2012年、2015年、エリーザベト王妃国際コンクール、2018年ロン＝ティボー国際コンクール、2019年チャイコフスキー国際コンクールヴァイオリン部門審査員。2012年より「国際音楽祭NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。また、これまでにデッカより15枚のＣＤをリリースしている。

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロンビア大学に学んだ後、同音楽院修士課程修了。国立ベルリン芸術大学で学び、2021年学術博士課程修了、ドイツ国家演奏家資格取得。

使用楽器は、日本にルーツをもつ米国在住のDr. Ryuji Uenoより長期貸与された1732年製作のグァルネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。

Akiko Suwanai (Violin／Artistic Director of International Music Festival NIPPON 2022)

Akiko Suwanai was the youngest ever winner of the International Tchaikovsky Competition in 1990. She has performed with the world's foremost orchestras, including the Boston Symphony, Philadelphia Orchestra, Orchestre de Paris, Berlin Philharmonic, and NHK Symphony Orchestra, under the batons of Ozawa, Maazel, Dutoit, and Sawallisch, just to name a few. She has appeared in numerous international music festivals including the BBC Proms, Schleswig-Holstein, Lucerne and others. Suwanai was a jury member of the violin divisions of the Queen Elisabeth International Music Competition of Belgium in 2012 and 2015, the Concours International Long-Thibaud-Crespin in 2018, and the International Tchaikovsky Competition in 2019. Since 2012, Akiko Suwanai has been Artistic Director of the International Music Festival NIPPON, which she plans and produces. She has released 15 CDs on the Decca label.

Akiko Suwanai studied at Toho Gakuen Music High School and completed the Soloists' Diploma Course of Toho Gakuen College of Music. After studying at the Juilliard School and Columbia University on the Artist Overseas Training program sponsored by the Agency for Cultural Affairs, she received a master's degree in Music from the Juilliard School. She also studied at the Universität der Künste Berlin, and in 2021 completed the doctor of arts program and received the Konzertexamen degree, Germany's qualification for outstanding musicians.

Akiko Suwanai performs on the "Charles Reade" Guarneri del Gesu violin c1732, on long-term loan from Dr. Ryuji Ueno, who has Japanese roots and lives in the United States.

©Philipp Plum

Mark Gothoni

マーク・ゴトーニ（ヴァイオリン）

フィンランドを代表するヴァイオリニストの1人。21歳でブラームス国際コンクールに上位入賞しデビュー。以来世界各国でソリスト、室内楽奏者として精力的に活動。母国フィンランドでは1998-2011年ラウマ音楽祭総監督、2001年よりサボンリンナ・ミュージック・アカデミーの室内楽部門監督を務める。2018年第1回「オーパス・クラシック（The OPUS KLASSIK）アワード 室内楽部門」受賞。コンセルトヘボウ、ウィグモアホール、ヘラクレスザール、リンカーンセンター等、世界の名だたるホールのコンサートシリーズに招聘されるなど活発な演奏活動の傍らで、ベルリン芸術大学ヴァイオリン科主任教授として後身の指導にも情熱を傾けている。

Mark Gothoni (Violin)

Finnish violinist Mark Gothoni studied with Ana Chumachenco, Shmuel Ashkenasi and Sandor Vegh. As prize-winner of several international competitions he is performing as chamber musician and soloist, while holding a post as professor at University of Arts in Berlin and teaching also at master classes around the globe. He served as concertmaster of the Zurich and Munich Chamber Orchestras and he performed frequently also as musical director of the European Union Chamber Orchestra. As first violinist of the Orpheus Quartet and member of the Mozart Piano Quartet he has a wide discography of which several have won international prizes.

Yasuhiro Suzuki

鈴木 康浩（ヴィオラ）

読売日本交響楽団ソロ・ヴィオラ奏者。5歳よりヴァイオリンを始め、桐朋学園高等学校音楽科を経て桐朋学園大学卒業。卒業後ヴィオラに転向。第47回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第1位ほか受賞多数。2001年よりドイツのカラヤン・アカデミーで研鑽を積み、ベルリン・フィルの契約団員となる。またサイトウ・キネン・フェスティバル、宮崎国際音楽祭など多方面で活躍を続けている。

Yasuhiro Suzuki (Viola)

Yasuhiro Suzuki is a principal solo violist with the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra. He began studying the violin at the age of five, and graduated from Toho Gakuen College of Music after studying at Toho Gakuen Music High School. After graduation, he changed instruments from the violin to the viola. Suzuki has won many prizes, including 1st Prize in the high school division of the Tokyo round of the 47th Student Music Concours of Japan. Suzuki trained at the Karajan Academy in Germany starting in 2001, and became an associate member of the Berlin Philharmonic. His wide-ranging activities also include appearances at the Saito Kinen Festival and the Miyazaki International Music Festival.

©KING RECORDS

Rei Tsujimoto

辻本 玲（チェロ）

東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業後シベリウス・アカデミー、ベルリン芸術大学に留学。2009年ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第3位入賞（日本人最高位）。2013年齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。2019年CD『オブリヴィオン』をリリース（「レコード芸術」誌特選盤）。NHK交響楽団首席チェロ奏者。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより1730年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを、弓は匿名のコレクターよりTourteを特別に貸与されている。

公式サイト　http://www.rei-tsujimoto.com

Rei Tsujimoto（Cello）

Rei Tsujimoto, principal cellist of the NHK Symphony Orchestra, is a premier prix graduate of Tokyo University of the Arts. He continued his studies at the Sibelius Academy in Finland and Hochschule der Künste Bern in Switzerland. He was awarded second place as well as the Audience Award at the 72nd Music Competition of Japan. In 2007. In 2009, he was granted third place at The Gaspar Cassado International Violoncello Competition.

©HIDEKI NAMAI

Tomoki Sakata

阪田 知樹（ピアノ）

2021年エリザベート王妃国際音楽コンクール第4位入賞。2016年フランツ・リスト国際ピアノコンクール（ハンガリー・ブダペスト）第1位、6つの特別賞。第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール最年少入賞。ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、聴衆賞等5つの特別賞、クリーヴランド国際ピアノコンクールにてモーツァルト演奏における特別賞、キッシンジャー国際ピアノオリンピック第1位及び聴衆賞。東京藝術大学を経て、ハノーファー音楽演劇大学ソリスト課程ピアノ科に在籍。コモ湖国際ピアノアカデミーでも研鑽を積む。2017年横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。

Tomoki Sakata（Piano）

Tomoki Sakata was awarded 4th Prize at The Queen Elisabeth Competition 2021. In the 2016 International Franz Liszt Piano Competition in Budapest, he won 1st Prize and six special prize, becoming the first Asian winner in the competition's history.

In 2013, Sakata was the youngest finalist at the Van Cliburn International Piano Competition. He won the Grand Prix, Audience Prize and five other special prizes at the 35th PTNA Piano Competition; the Mozart Special Prize at the Cleveland International Piano Competition; and 1st Prize in the 2019 Kissinger KlavierOlymp.

Based in Hannover and Yokohama, Tomoki Sakata received the city of Yokohama's Cultural Award and Art Encouragement Prize in 2017.

国際音楽祭NIPPON 2022　芸術監督：諏訪内晶子

感動を紡ぐ：トップ・クオリティの追求　**心をつなぐ**：演奏を通じた社会貢献　**未来を創る**：次世代への継承

国際音楽祭NIPPONは、様々な機会を通して、豊かな音楽の世界を多くの方々と共有できる場を創ってまいります。

■諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル　J.S.バッハ：無伴奏ソナタ＆パルティータ 全曲演奏会

Akiko Suwanai Violin Recital　J.S.Bach Sonatas and Partitas for Solo Violin, BWV1001-1006

［名古屋］ 2月11日（金・祝）14:00　名古屋　三井住友海上しらかわホール
February 11 Fri. 14:00　Nagoya　MS&AD SHIRAKAWA HALL

2月13日（日）14:00　名古屋　三井住友海上しらかわホール
February 13 Sun. 14:00　Nagoya　MS&AD SHIRAKAWA HALL

［東京］ 2月16日（水）19:00　東京　東京オペラシティ コンサートホール
February 16 Wed. 19:00　Tokyo　Tokyo Opera City Concert Hall

2月18日（金）19:00　東京　東京オペラシティ コンサートホール
February 18 Fri. 19:00　Tokyo　Tokyo Opera City Concert Hall

■尾高忠明指揮／NHK交響楽団　諏訪内晶子（ヴァイオリン）

Conductor: Tadaaki Otaka　NHK Symphony Orchestra, Tokyo　Akiko Suwanai（Violin）

2月21日（月）19:00　東京　東京オペラシティ コンサートホール
February 21 Mon. 19:00　Tokyo　Tokyo Opera City Concert Hall

■公開マスタークラス（ヴァイオリン部門）Open Master Classes（Violin）

3月3日（木）・4日（金）　横浜　フィリアホール（横浜市青葉区民文化センター）
March 3 Thu. / 4 Fri.　Yokohama　FILIA HALL

■～諏訪内晶子＆フレンズ～コンサート in 陸前高田（東日本大震災復興応援）

Concert in Rikuzentakata Supporting Recovery Efforts after the Great East Japan Earthquake

3月6日（日）14:00　陸前高田　陸前高田市民文化会館（奇跡の一本松ホール）
March 6 Sun. 14:00　Rikuzentakata　Rikuzentakata City Cultural Hall（Kisekinoipponmatsu Hall）

■諏訪内晶子 室内楽プロジェクト　Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends

Akiko Suwanai Chamber Music Projects

Akiko plays CLASSIC with Friends
3月 9日（水）19:00　東京　紀尾井ホール
March 9 Wed. 19:00　Tokyo　Kioi Hall

Akiko plays MODERN with Friends
3月11日（金）19:00　東京　紀尾井ホール
March 11 Fri. 19:00　Tokyo　Kioi Hall

■ミュージアム・コンサート　Museum Concert

3月12日（土）19:00　名古屋　トヨタ産業技術記念館 エントランス・ロビー
March 12 Sat. 19:00　Nagoya　Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology Entrance Lobby

■ブラームス 室内楽マラソンコンサート　Brahms Chamber Music Marathon Concert

3月13日（日）東京　東京オペラシティ コンサートホール
March 13 Sun.　Tokyo　Tokyo Opera City Concert Hall
［第1部］10:30　［第2部］13:30　［第3部］19:00

主催：ジャパン・アーツ／日本経済新聞社／陸前高田市民文化会館（東日本大震災復興応援コンサートのみ）
共催：［愛知］中日新聞社／CBCテレビ　［岩手］岩手日報社／IBC岩手放送　［横浜］フィリアホール（横浜市青葉区民文化センター）
後援：フィンランド大使館／東海新報社（東日本大震災復興応援コンサートのみ）
特別協賛：豊田自動織機　TOYOTA　豊田通商　AISIN
協力：ユニバーサル ミュージック／トヨタ産業技術記念館（ミュージアムコンサートのみ）
企画制作：ジャパン・アーツ　プログラム監修：沼野雄司／舩木篤也
マネジメント：［東京］ジャパン・アーツ　［愛知］クラシック名古屋
制作協力：［岩手］岩手県文化振興事業団